

令和7年度川崎市食育推進会議（摘録）	
日時	令和7年8月20日（水）午後3時～4時
会場	川崎市役所本庁舎7階特別会議室
出席者	<委員>福田紀彦会長、佐野喜子委員、本所靖博委員、馬嶋正和委員、金井久弥委員、堀田彰恵委員、北村恵子委員、石渡宏之委員、笠原佐代子委員、田邊静江委員、萩原ひとみ委員、小川町子委員、中山敏夫委員、杉中祐介委員、西尾大輔委員、水庭香菜委員、重友正美委員、稲野辺健一委員（委員名簿順） <事務局> 経済労働局農業振興課長 川口愛、環境局減量推進課長 山田俊彦、こども未来局運営支援・人材育成担当課長 杉山遼子、教育委員会事務局健康給食推進室担当課長（食育推進）小田貴子、健康福祉局長 石渡一城、健康福祉局地域包括ケアシステム推進室長 菅野智宏、市立看護大学副学長 荒木田美香子、健康福祉局保健医療政策部担当部長 林露子、健康福祉局保健医療政策部担当部長 半澤元章、健康増進課長 大西哲史、保健医療政策部担当課長（健康増進）阪田敬子、健康増進課課長補佐 國米佑宇、健康増進課担当係長 並河あゆみ、健康増進課主任 北野葉子、健康増進課 前田恵里、高岸悠太郎、谷草太（事務局名簿順）
欠席者	<委員>小林直樹委員
傍聴人	なし
1 開会	
事務局	当会議は川崎市審議会等の会議公開に関する条例に基づき公開する。
2 委員の紹介	
3 市長挨拶	
委員就任に感謝申し上げます。2年間よろしくお願いする。 各会を代表される、それぞれの団体での主体的な食育の取組や、団体同士が連携しての取組については、心からの敬意を申し上げます。 食育を考えると様々な課題がある。日本全国で最も平均寿命が長い市区町村は男女ともに麻生区であり、一方で全国的に下から見た方が早い市内の区もある。同じ市内であっても平均寿命だけをとりまいても違いがあり、健康寿命でも色々変化があると思う。これを分析すると、あくまでも感覚的ではあるが食が大きく関わる部分があると思う。 食育推進会議では平均寿命の延伸以上に健康寿命の延伸を目指しており、私たちが生活する上で食を通じて自然に健康になれるという世界観を目指している。課題は、食育や健康に関心のある人たちはものすごくあり、全く関心のない人はずっと関心がない、その中間の方もおり、全ての市民の皆さんに先ほど申し上げた世界感、目指すべき姿を実現するためにはまだ相当やるべきことがあることである。関心のない人たちに関心をもってもらい、中間層にある人には更に高みを目指してもらうためには、何をやっていけばリーチできるのか、行政だけでなく、皆様と協働で、そこに意識を向け行動変容していただけたところにつなげていく必要があると考えている。 皆様の意見をしっかり反映させてよい施策に結びつけていきたい。また、重なることによって今までできていなかった取組をしていきたいと考える。本日は、積極的な発言をよろしくお願いする。	
4 議事	
(1) 令和6年度食育の取組について（報告）	

会長	議事（１）について、事務局から願います。
事務局	令和６年度の食育の取組について報告する。（資料２、３、４－１、４－２）
会長	事務局からの説明について、御意見や御質問があれば、願います。
委員一同	（特になし）
会長	御意見がないようであれば、次の議事に進む。
（２）令和７年度食育の取組について（案）	
会長	議事（２）令和７年度食育の取組について、事務局から願います。
事務局	令和７年度の食育の取組について報告する。（資料５、６）
会長	事務局からの説明について、御意見や御質問があれば、願います。
委員一同	（特になし）
会長	御意見がないようであれば、事務局では示された案に基づき進めるようお願いする。
（３）自然と健康になれる食環境づくりの推進について（案）	
会長	議事（３）自然と健康になれる食環境づくりについて、事務局から願います。
事務局	自然と健康になれる食環境づくりについて説明する。（資料７） 資料９枚目にある「多様な主体と連携した具体的な取組」について、今後本市が取り組むべき案として①～⑥をお示しするので、今後の取組、特にこの番号の取組に取り組むべきといった御意見を願います。 また、本審議会については、必要に応じて部会を設置できることになっているため、部会を設置し、具体的な取組について御意見をいただきたいと事務局では考えており、その際の部会委員（案）については、参考資料１のとおり提案する。
会長	資料９枚目にある①～⑥の具体的な取組に取り組むにあたり、御意見を願います。まずは、学識の委員に御意見を願います。
佐野委員	食育は自治体の特徴や特性を生かした食育の方向性があるべきと考える。県内３自治体の食育推進会議に関わっているが、地元の伝承をつなげる食育、市民アンケートの栄養の格差が問題という市民の声を反映し何ができるかを検討する等、各自治体の特色がある。川崎市は若い世代からの生活習慣病予防を重点的視点にするのであれば、そこをゴールにし、何をしていけるか検討するとよい。 市長の御発言にもあったが、関心のあるところに情報は集まるため、関心の無いところに情報を届けるという点を第一にしてもよいかと思う。６つのどれに該当するかという視点だけでなく、そういう視点を持つことにより、６つの項目についてもできてくるものが違ってくると思う。 また、企業の協力がある自治体は他にもあるが、食品や食事を提供する企業が多い。川崎市は製造している企業も入っているため、大都市としての新たなモデルができるのではないかと考える。 そういう視点を考慮すると、６つの項目について、何ができるか皆様の視点も広がるのではないかと考える。
本所委員	食育に正解はないと思う。皆様の経験豊富なリソース、経験や知見をフル活用して、事務側が提案したことをやってみるしかないと思う。働き世代と介護予防の世代が

	ターゲットになると思うが、どちらに取り組むのか、両方に取り組むのか、多様な主体とどのような取組ができるのか、やり方もそれぞれ異なると思うため、まずは、皆様のアイデアを聞いてみたいと思う。 その背景には、どのような思いで皆様が取り組んでいるのかが分からないと、連携が難しいことがある。また、続けることが一番難しいと思うため、自然とやるということは構えずにやるということだと思うので、どのようにしたらできるのかと思う。 ゼミでカゴメ食堂をしているが、学生も参加者も楽しそうにしており、それが大事だと思う。野菜をとることに関心がない人も食べることは好きな人は多いと思う。それをどう結び付けていけるかが、行動変容を起こす上で大事だと思う。ゲーム感覚なのか、ポイ活なのか色々な手段があると思う。 ゼミでは、5社の企業と連携しているが、多くの企業は若い人たちを対象とした大人の食育に興味を持っている。 それぞれが持っている強み、できることから始めることが大切だと思う。
会長	企業の委員からもコメントをお願いします。
杉中委員	味の素(株)川崎事業所では約4,000人の働き世代の方が勤務しており、食堂では1日あたり約1,000食の利用がある。従業員の皆様に、美味しく食事を楽しみ元気に働いていただくため、日々メニューの工夫を重ねているが、私たちが意図する栄養バランスの整ったヘルシーメニュー（当社では「マイヘルスランチ」という）へのシフトが十分に進んでいない状況である。「マイヘルスランチ」は、毎日でも飽きずに食べて頂けるよう、日々メニュー変更し工夫しているが、お肉や揚げ物等、ボリュームのあるメニューが一番人気となる日もしばしば見受けられる。 また、事業所では屋外で汗をかき、体を動かして業務に従事する方もいるため、「マイヘルスランチ」では味・ボリュームに物足りなさを感じるという声もある。少しでも当メニューに興味を持っていただくため、塩分を控えつつ、うま味を活かした美味しい味付けのメニューを提供しているが、ラーメンとおにぎり等、主食のみで済ませている方も見受けられる。 先ほど市長の御発言にもあったように、従業員全員にリーチするためには、もっと心に響く工夫が必要だと考えている。食堂入口でのメニュー掲示や、週間メニューのメールマガジンだけでは十分にアピールできていない層にも、自分自身の体と健康の大切さを実感して頂けるような仕掛けが必要だと感じている。
会長	本所先生の御発言にあったが、「楽しい」という要素が必要、「ただ健康によいから食べましょう」では響かないということか。
水庭委員	大人向けの食育はあまり行っていないが、店舗近隣の保育所や小学校を対象に食育活動をしている。朝ごはんは食べるが、野菜の摂取は少ないということで、一般社団法人ファイブ・ア・デイ協会という食育のツールを作成している協会の媒体を活用して、「1日に5皿分の野菜を食べましょう」を合言葉に啓発をしている。 また、店舗のイートインスペースを利用して、別の企業と連携して食育活動を行うことがある。先日もライフ溝口店にて雪印メグミルク株式会社と連携し、野菜と乳製品の摂取について促すイベントを開催した。 弊社としてできることとすると、資料6に記載したが、溝口店、川崎塚越店、川崎

	大島店のイートインスペースを確保できるため、小学生向けのイベント等、協力できる内容があれば実施させていただきたいと考える。 今後必要な取組については、「③価格のコントロールによる栄養格差の解消」について、弊社では気軽にドレッシングをかけて食べるサラダ等を提供していることから、どこまでできるかは不明だが、サラダ等の野菜を使った商品等に品群を絞り、市民の方にクーポン配布等もできるのではないかと考えている。
会長	サラダにクーポン券を付ける、とてもよい考えだと思う。企業ならではの協力していただける取組である。
稲野辺委員	食品企業に勤める会社員である。企業としては、食とスポーツをメインに打ち出している。特に健康寿命の延伸は重要であり、食材についても、単一ではなく複数組み合わせ栄養摂取量を増やすこと、また、食物アレルギーに対応した食育等に取り組んでいる。 資料では、1日2回以上栄養バランスのよい食事がとれている状態が目指す姿と記載されているが、弊社では1日3食、朝食からきちんと栄養をとることを進めており、PFC 比もバランスよくとることも川崎市から発信できたらと考える。 色々なアプローチ方法があると思うが、子どもたちを含め若い世代には SNS の活用、シニア世代には紙媒体等、ターゲットに合わせ、情報を発信していくことが必要と考える。
重友委員	食品メーカー、野菜を多く扱う企業に勤め、市が直面する課題にも向き合っている状況である。一市民としては、若いときは自治体とのつながりを感じられず、母子健康手帳をもらったところから自治体とつながり、転居後になかなか知り合いが増えない中で自治体に知り合いをつくる機会や、子どもを通じて自分の食生活を見直すという機会をいただいた。 川崎市という場所を考えると魅力的な商業施設、スポーツ団体も多く、正面から食の大切さや野菜の重要性を伝えていきたいが、食の専門家だけでなく、スポーツ選手やそれぞれの分野で頑張っている方等が食を大事にしているという情報を発信してもらうのもよいと思う。
石渡委員	資料7に朝食を欠食する人の割合が約2割とあったが、流れの中では増加傾向か。
事務局	増えている状況である。
石渡委員	食育推進会議の委員を何期か継続しているが、親の世代に朝食の大切さを伝えるのは難しい、そこで学生の頃から朝食の重要性を伝える取組をしていると理解しているが残念ながら朝食の欠食は増えているとのこと。 幼稚園では、朝食を食べていない子が分かれば、保護者への声かけを含め、朝ごはんを食べられる環境づくりを行うというのが、我々が取り組んでいる食育の取組の一つである。 子どもからも大事であるが、親世代が朝食を欠食することの影響を理解することも重要と思う。市では多くの世帯が保育所や幼稚園に通っているため、そこは各家庭へアプローチできる場と考える。その際によりツールが共有できればアプローチしやすい。学校や幼稚園で集会をしても集客が難しい。どう伝えていくのか、その点もお知恵をいただきたい。

	また、子ども、中高生も含め生活リズムが崩れ、深夜まで起きている、間食をしていることによる朝食の欠食もみえてきている。 先ほど、杉中委員の御発言で地域によって欲しいという栄養があるという話を興味深く聞いたところである。市の南部にいたため、比較的体を使う仕事をしている人が多い地域、濃いめの味付けが必要な栄養として求められていると理解する。 先日、私用でベトナムに行ったが、共働きが多い国のため朝食は屋台、彼らは栄養価が高いということではなく、まずは、食事をするというパターンがついている。まずは、朝食を食べるという習慣をつけるということが重要であると考えます。
笠原委員	今後必要な取組や今までの報告を伺い、生活リズムの崩れや、やせているのが良い等の若者の意識を改革するには、市だけの問題ではなく、日本全体での取組や方向性が必要と感じる。 看護師として小児科勤務をしているが、幼少期の頃からの食事は大切、アレルギーの関係で食べたいものを手軽にとれない状況があるお子さんが沢山いると感じる。共働き世代が多いため、手軽に上手く野菜や必要な栄養がとれる方法、具体的なメニューを知ってもらう手段があれば、家庭でも必要な栄養が摂れるようになる気がした。
田邊委員	個人的な意見になるが、高齢になると身体が欲しているもの、例えば今の時期であればトマトやキュウリ等の冷たいものが目につくように感じる。栄養があるという情報だけでは購買に繋がらない。美味しそうな料理の写真を店頭に掲示するなど、単純だが視覚に訴えるような広報等が必要だと思う。美味しそうなもので目をひき、その後その必要性等をお示しいただけると分かりやすいと思う。
金井委員	資料7の2ページにある目指すべき状態の食育の観点について、歯科医師会としては、「しっかりよく噛んで食べることができる」という項目を入れていただきたい。乳幼児や高齢者へのアンケートでも入っていますので。①～⑥の多様な主体と連携した具体的な取組等については、①②④⑤⑥辺りが関係してくると思う。学校給食の写真が資料にありましたが、噛むことができないと残食になってしまうことを気にかけているのかなと感じました。
堀田委員	取組①～⑥、で考えると、取組の分野ではなく、アプローチの方法である⑤産学官の連携による食に関する課題を解決するアイデアの創出が面白いと思った。先ほど意見で出されたクーポン券の発行も企業ならではの、すごいと思った。⑤をクローズアップして考えることにより、かわさきTEKTEKのようなゲーム性のあるアプリの開発等、思いもよらぬ川崎市ならではの発信が期待される気がする。
会長	川崎市のウォーキングアプリ、TEKTEKは30～50歳代をメインターゲットしており、ユーザーの75%がターゲット層。歩くとポイントが貯まる、そのポイントは子どもたちの学校に寄付できるという自分のためではなく誰かのためになるという仕組みである。産学官の連携により何ができる等アイデア出しは重要だと思う。
萩原委員	中原区の食育には何年も携わっているが、NECや富士通等の企業連携もあり頑張っている。先日、平間小学校の安西先生の保護者向けの講演会を見学させていただいた。学校給食の取組を説明されていたが、市の頑張りが示されており感激した。YouTubeにあげる等、多くの人が見られるようにできるとよい。 飲食店の立場から発言させていただくと、例えば6月の食育月間に合わせて、市内の飲食店で「1日に必要な野菜の1/3といった何か基準を超える量が取れるメニュー

	一」があれば、かわいらしいキャラクターで示すなどの取組をして、「川崎市はこれで元気になろう」といったような、色々な飲食店を巻き込みながら川崎市を盛り上げていけたらと思う。関係者だけが意識しているだけだともったいない。色々な飲食店を巻き込みながら、大企業、学校とそれぞれ頑張っていることがお互い分かるようになれるとよい。
会長	いただいた意見を取り入れて取り組んでまいりたい。 事務局から提案のあったとおり、議論を深めるために部会の設置をしたいと思うが、いかがか。
委員一同	(賛同)
会長	部会の委員について、案のとおりでよいか。
委員一同	(賛同)
会長	案のとおりすすめさせていただく。
(４) その他	
会長	議事(４)その他について、委員の皆様から、何かあるか。
委員一同	(特になし)
会長	事務局からは、何かあるか。
事務局	在任委員の任期は、令和9年6月30日までとなる。次回の会議については、次年度開催のため、事務局から改めて案内する。
5 閉会	